第6回「B＆G全国サミット」共同宣言（案）

一．海洋センターとの連携
B＆G財団と全国390市町村との連携をさらに深め、一丸となって“B＆Gプラン”＝スポーツ・健康・人づくり＝を推進する。

一．施設の運営と管理
市町村合併の有無にかかわらず、今後も“B＆Gプラン”の趣旨に則り、全ての施設について善良なる維持・管理に努め、運営にあたっては“B＆G指導員”を適切に配置する。また、その推進のため“B＆G指導者会”を設立し、その活用を図る。

一．積極的な事業の推進
“B＆Gプラン”の理念を再認識するとともに、B＆G財団が実施する新たなソフト事業を最大限に活用し、青少年の健全育成と地域住民の健康づくりを積極的に推進する。

一．情報・ノウハウの共有
海洋センターの情報・ノウハウを共有し、コンパスと人的ネットワーク、そしてブロック連絡協議会を通じて地域交流の促進、及び地域海洋センターの活性化を図る。

一．環境・防災・水辺の安全教育の推進
全国の海洋センター・指導者会などが協力し、青少年の「生きる力」を育む“自然体験活動”と“環境・防災・水辺の安全教育”を積極的に推進する。

一．「東日本大震災」の復旧・復興
日本一の「健康・人づくり」のネットワークを活用し、今後とも各種の支援活動を継続するとともに、B＆G「日本元気復活事業」などを通じ、被災地に元気と希望を提供する。

2014年1月30日
海洋センター所在市町村長一同

一．「水の事故ゼロ運動」の推進
日本全国での“自然体験活動”と“水の安全教育”の更なる推進のため、市町村長が一致団結し、未来を担う青少年の健全育成に努める。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

第6回

B&G全国サミット

体験活動で健やかな子供の成長を～B＆Gネットワークの活動事例から～

2014年1月30日（木）笹川記念会館

第1部 14：00～

1. 主催者挨拶　B&G財団 会長 梶田　功
2. 来賓紹介
3. 特別基調講演
「日本人としての誇り」　日本財団　会長 笹川 陽平 様

休憩

第2部（議事）

4. 正副会長の選任・挨拶
5. B&G財団からの事業説明　B&G財団 専務理事 菅原 悟志
6. B&Gネットワークの活動事例
   - ●健やかな子供の成長を願い　福井県大野市　市長 岡田 高大 様
   - ●いのちを守る「希望の森づくり」プロジェクト　静岡県掛川市　市長 松井 三郎 様
   - ●香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン　兵庫県香美町　町長 浜上 勇人 様
   - ●少年自然の家を活用した通学合宿プロジェクト　広島県安芸高田市　市長 浜田 一義 様
7. 第6回B＆G全国サミット共同宣言の確認

第3部（表彰）

8. 2013B＆G広報大賞表彰
9. 優良海洋センター表彰

交流会17：00～　4Fホール

ご挨拶 「第6回B＆G全国サミット」の開催にあたり

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
会長 梶田 功

本日は、第6回「B＆G全国サミット」を開催いたしましたところ、公務ご多忙のなか、全国390ヵ所の海洋センター所在自治体から、多数の首長をはじめ、代表者の皆様にご出席をいただき厚くお礼申しあげます。
また、B＆G財団の事業推進にあたり、多大なご支援をいただいております日本財団をはじめ、ボートレース関係団体の代表者など多数のご臨席をいただき、心よりお礼申しあげます。

この「B＆G全国サミット」は、全国の海洋センター所在自治体の首長、教育長が一堂に会し、B＆G財団と自治体、また自治体相互の情報を共有することで、連携を強化し、「青少年の健全育成」や、地域住民の「健康づくり・人づくり」を一丸となって推進するための最重要会議でございます。

まもなく東日本大震災から3年が経とうとしておりますが、被災地におかれましては、今もなお、日夜懸命な復興活動が続けられております。また、近年では局地的な大雨や、大型台風などによる自然災害が発生し、多くの自治体が大変なご苦労を重ねておられます。皆様のご尽力に対し、心から敬意を表する次第でございます。
そのような中、9月には2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定するという明るいニュースが届きました。昨年行われた東京国体では、B＆G海洋センターや海洋クラブで練習に励んできた51名の子供たちが、水泳、カヌー、セーリング競技に出場し、素晴らしい成績を残しました。東京五輪では、多くのB＆G関係の選手が活躍してくれることに、今から大きな期待を寄せているところでございます。
皆様方にも力強いご支援をお願い申しあげる次第でございます。

さて、本日の会議は「体験活動で健やかな子供の成長を～B＆Gネットワークの活動事例から～」をテーマに開催いたします。
第一部では、「日本人としての誇り」と題し、毎回参加者の皆様から強いご要望のある日本財団 笹川 陽平 会長による特別基調講演を頂きます。
第二部として、4名の首長から各自治体での個性豊かな体験活動の取り組み事例をご紹介いただくとともに、B＆G財団からは、今後力を入れて推進していく事業などの説明を行います。
会議終了後は、「交流会」を用意しております。全国の首長や、財団役職員との情報交換などを行っていただきますようお願い申しあげます。

おわりに、B＆G財団は設立40周年を迎え、本年から新たな一歩を踏み出したところでございます。これからも当財団は、本日ご参加の皆様や全国のB＆Gネットワーク関係者とともに、「青少年の健全育成」をはじめ、幼児から高齢者までの「健康づくり・人づくり」を推進してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげ、挨拶とさせていただきます。

B&G人的ネットワーク強化事業

各階層ごとに開催される会議や「相互人事交流制度」により、B&G財団と「海洋センター」所在自治体との人的ネットワークの強化に努める。

「B＆G全国サミット」
対象：市町村長・教育長

平成15年度から5回実施。延べ836名の首長をはじめ2,971名が参加。平成24年度は、首長204名、副首長33名、教育長171名など、合計670名が参加。平成23年度から毎年実施。

「B＆G全国教育長会議」
対象：道府県連協代表教育長・ブロック幹事教育長・担当者

平成14年度から10回実施。44道府県から延べ667名の教育長等が参加。平成23年度から「ブロック幹事会議」の内容も盛り込み開催。

「B＆G全国指導者会総会」
対象：B＆G資格所有者・海洋センター担当者

平成21年度に全国17,000人の「B&G指導者」により「全国指導者会」を設立。平成25年に「第二回B&G全国指導者会総会」を開催。未来を担う子供たちのために、更なる連携協力を図ることで全会一致。

特別基調講演 「日本人としての誇り」

日本財団
笹川 陽平 会長

[略歴] 1939年 東京生まれ。明治大学経済学部卒。

ハンセン病の世界制圧を目指し、世界保健機関ハンセン病制圧特別大使として 1年の3分の1近くを発展途上国の現場で活動している。1985年に122カ国あったハンセン病未制圧国も、現在はブラジル1カ国を残すのみとなった。

医学的な制圧だけでなく、ハンセン病のもう一つの問題であるスティグマや差別との闘いも開始。2003 年には初めて国連人権高等弁務官事務所を訪問し、人権問題として取り上げることを要請した。これらの働きにより 2010 年 12 月には国連総会でハンセン病患者、回復者、その家族に対する差別撤廃が決議された。

次代を担う人材を養成しようと多様な教育プログラムを展開。世界 69 大学に奨学制度を設け、グローバルな視点で行動できる人材を養成、卒業した笹川奨学生は13,000人を超え、世界的なネットワークを構築している。

中国においては、30 年間で 2,200 人以上の中国人医師を日本の大学医学部や医療機関で受け入れてきた。世界海事大学の奨学制度はじめ海洋の専門家の育成にも取り組む。

2013 年 2 月には日本政府より「ミャンマー国民和解担当日本政府代表」に任命され、60 年以上の長きにわたり闘い続けてきたミャンマー政府と少数民族武装勢力との信頼醸成のため奔走している。

40 年以上にわたるマラッカ・シンガポール海峡の航行安全のための活動では、その功績が認められマレーシア国王からタン・スリ称号を拝受。旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所の事故後、20 万人の子ども達の健康診断を実施し、ロシア友好勲章を受章した。ミレニアム・ガンジー賞、読売国際協力賞など多数受賞。

国内外での活動は「日本財団会長 笹川陽平ブログ」で紹介している。

「日本財団会長 笹川陽平ブログ」
http://blog.canpan.info/sasakawa/

【主な著書】
『知恵ある者は知恵で躓く』(クレスト社)
『外務省の知らない世界の"素顔"』(扶桑社)
『二千年の歴史を鑑として』(日本僑報社)
『この国、あの国』(扶桑社)
『世界のハンセン病がなくなる日』(明石書店)
『人間として生きてほしいから』(海竜社)
『若者よ、世界に翔(はばた)け!』(PHP研究所)
『不可能を可能に　世界のハンセン病との闘い』(明石書店)
『隣人・中国人に言っておきたいこと』(PHP研究所)

【最新著書】
『紳士の「品格」』(PHP研究所)